

# ごみ資源化施設建設NEWS

みんなで実現！ごみマイナス40% **-40%**

Vol.3

## 町田市のごみ処理の歴史

町田市のごみ処理は、1956年に金森焼却場を開設したことがはじまりです。1969年には下小山田町に移転、その後、大型団地の建設等による急激な人口増加に対応するため、1982年に「町田リサイクル文化センター」を新設しました。

町田リサイクル文化センターは、現在、運転開始から約30年が経過し、通常の維持管理費のほかに年間約10億円の修繕費がかかっており、将来にわたって安定的なごみ処理を行っていくために、新たなごみの資源化施設の整備が喫緊の課題となっています。



ごみとして処理する量を40%削減することを目標とした「町田市一般廃棄物資源化基本計画（2011年4月策定）」に基づき町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会で検討された内容について、2012年11月26日に細見委員長から石坂市長に報告しました。

報告の様子  
(左から石坂市長と細見委員長)



## 建設候補地ってどんなところ？

※候補地の名称は、わかりやすく表記しております。



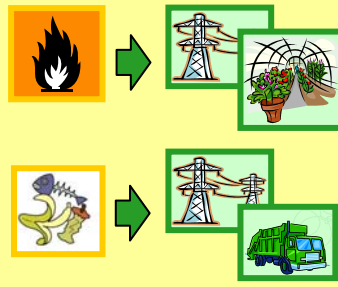
ごみの資源化施設は、上図の候補地から

- ・熱回収施設等（焼却施設、バイオガス化施設）1か所
  - ・資源ごみ処理施設 2か所
- の複数か所に分散して建設します。

## ごみを減らして資源化を進めます！

### ● 熱回収施設等

- ・焼却施設（258トン/日）：ごみの焼却で発生するエネルギーを発電や熱供給に有効利用します。
- ・バイオガス化施設（50トン/日）：これまで焼却していた生ごみからメタンガスを発生させ、発電機や自動車の燃料に利用し資源化を進めます。



焼却施設の規模が  
今の約半分に！

476トン/日 → 258トン/日

そのためには…

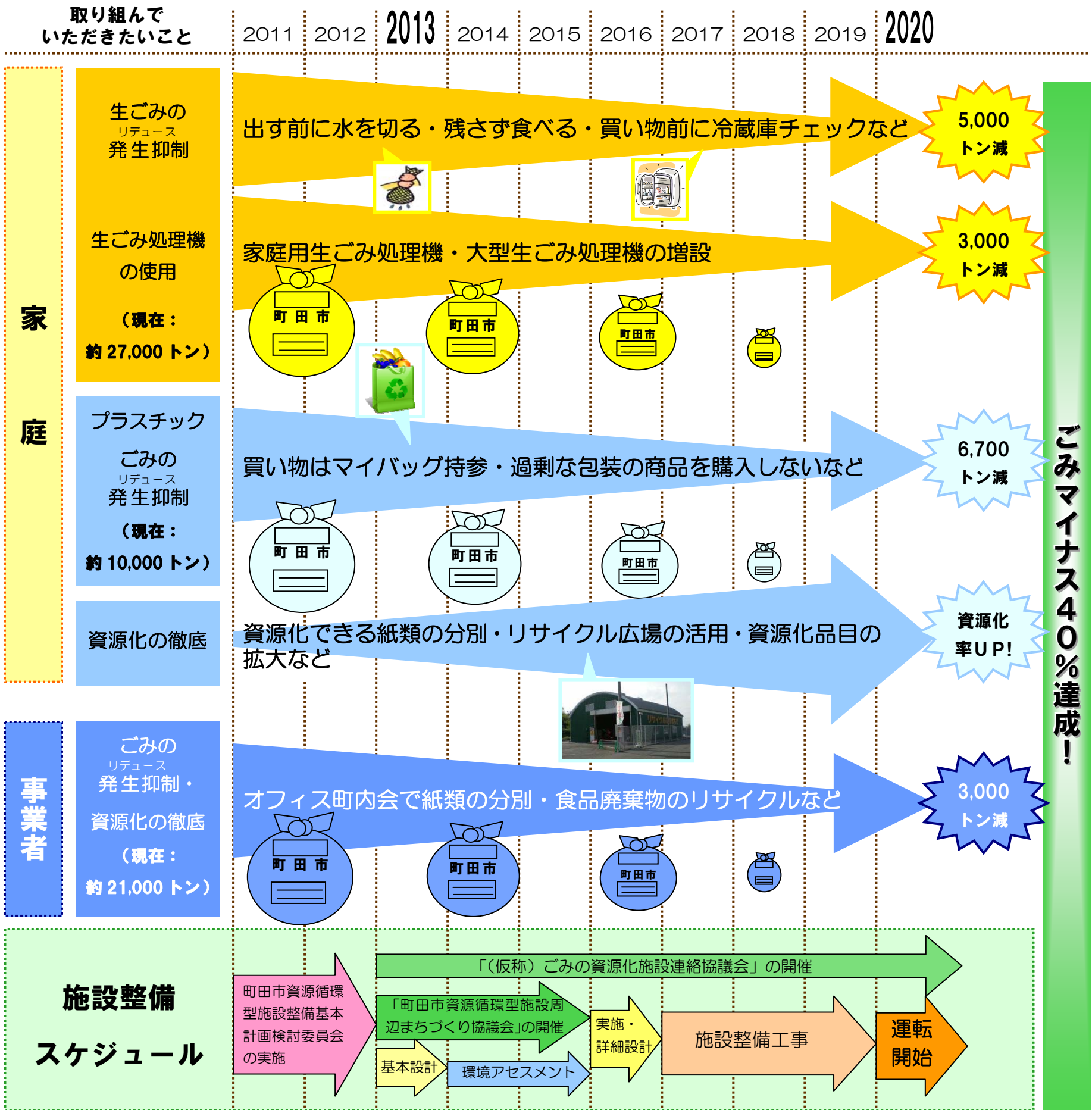
裏面へ！

### ● 資源ごみ処理施設

「容器包装リサイクル法」や「小型家電リサイクル法」等に基づき、収集したピン・カン・ペットボトル・プラスチック・白色発泡トレイ・紙パック・使用済み小型家電などを資源化します。この施設が整備されると、これまで焼却していた容器包装プラスチックが資源化され、新たな製品に生まれ変わります。

# 皆様にお願ひしいたいこと -ごみの減量・資源化にご協力ください-

新たなごみの資源化施設は、環境負荷を最小限にしていくために可能な限り小さな規模の施設とします。そのためには、皆様の普段の生活で、ごみの減量や資源化など、よりいっそうのご協力が不可欠となります。



## Q. 施設ができるとごみの出し方はかわるの？

生ごみの出し方は同じです。ただし…

- 出す前に水切りを十分に行ってください。
- 生ごみ処理機などを使った自家処理(たい肥化など)でガーデニングや家庭菜園に挑戦してみましょう。
- 食品は必要な分だけ購入し、きちんと食べきりましょう。

プラスチックごみの分別をお願いします。

- 食品包装などの「容器包装プラスチック」を分別収集し、新しい製品の原材料などとして資源化します。

資源化を促進するため、ビン・カン、その他の資源物の徹底した分別をお願いします。

※「町田市資源循環型施設整備基本計画」に関する詳しい情報は、町田市のホームページにも掲載しています。

【この広報紙に関するお問い合わせ】  
町田市環境資源部環境政策課  
電話：042-722-3111 (代表) 内線 3714  
FAX：050-3160-2758